

元ネタを楽しもう！

世の中、ネット情報もそうですが、2次情報、3次情報で溢れかえっています。

これらはいわば加工食品で、口当たりもいいし、お手軽だし、つつい手が出ます。

皆忙しいということもあって、それで済ませたくになります。

しかし元ネタに対峙して自分の感性を働かせてみると、思わぬ拾い物をするなど、良い事が沢山あります。これは本当に「お得」だと思います。

例えば、最近『ジャズ・レーベル完全入門（増補版）』という本を購入して内容を見たのですが、まず“完全”という言葉はタイトルから外すべきだと思いました。

1000枚以上リリースされているプレスティッジ（Prestige）レーベル系で紹介されているアルバムはたったの33枚です。更に各アルバムの紹介にはレコード番号はおろか曲目すら記載されていません。記載されている主な事柄はそれぞれのアルバムに対する著者の解釈と評価です。本のタイトルと文章から推察すると、この本は初心者向けという位置づけですが、むしろベテラン向けの本じゃないかと思えます。

昔、多くの人が高価なオーディオ装置を持たず、ジャズに関する情報の入手もままならなかった時代、ジャズ喫茶という場は手の届く唯一の情報源だったはずですが。

しかし今は違います。モノは潤沢だし、ネットで個人がモノだろうが情報だろうが集めることが出来ます。ジャズ喫茶の存在意義もこうした入門書の存在意義も薄れてゆくしかないのではないのでしょうか。

ここでは幾つかパラパラと元ネタ&2次情報をセットでご紹介してみたいと思います。

1 オーディオ製品（バランス型フォノケーブル：SCX-5000）

（出典：「季刊アナログ SPRING vol.47」 p.130）

元ネタ（ケーブルの仕様）

- ・ 導体: PC-Triple C
- ・ 導体断面積: 0.48sq (mm²) (×5 芯)
- ・ 絶縁体: フッ素 (FEP) 樹脂
- ・ 構造: ツイストペア×2
- ・ シールド: 銅箔+編組
- ・ ケーブル外径: φ11mm
- ・ プラグ: ノイトリック社製金メッキ XLR プラグ
- ・ ケーブル長: 1.2m (¥58,000)、1.5m (¥62,000) 各税別

この製品の紹介文

「(前略) 音質の変化を確認してみよう。100%ピュア LP『ワルツ・フォー・デビイ』は

目を見張る変貌ぶりだ。帯域の伸びが目覚しく、雑味が消える。微細なノイズが音を曇らせていたのだ。

スコット・ラファロのベースの重量感が増し、タッチに重みと圧力がある。ピアノの鮮度が増し倍音が伸び、スウィング感が増す。」

2 レコードカートリッジ2題 (出典:「季刊・アナログ特別増刊 2015 SPRING」)

(1) オーディオテクニカ AT-F7 ¥38,000

元ネタ (カートリッジの仕様)

- ・発電方式: MC 型
- ・再生周波数範囲: 15~50,000Hz
- ・出力電圧: 0.35mV (1kHz、5cm/sec)
- ・ch セパレーション: 27dB (1kHz)
- ・針圧: 1.8~2.2g (2.0g 推奨)
- ・コイルインピーダンス: 12Ω (1kHz)
- ・直流抵抗: 12Ω
- ・負荷抵抗: 100Ω (ヘッドアンプ接続時)
- ・コイルインダクタンス: 25μH (1kHz)
- ・針先形状: ムク楕円 0.2×0.7mil.
- ・垂直トラッキング角: 23°
- ・サイズ: 1.73H×16.8W×25.4D cm (正しくは 17.3H×16.8W×25.4D mm)
- ・重量: 5.0g

この製品の紹介文

高セパレーション、ワイドレスポンスを特徴とする。デュアルムービングコイル方式を採用した MC カートリッジ。

磁気エネルギーを飛躍的に高めたネオジウムマグネットを採用。

(2) オルトフォン MC Windfeld ¥450,000

元ネタ (カートリッジの仕様)

- ・発電方式: MC 型
- ・出力電圧: 0.3mV
- ・周波数特性: 10Hz~80kHz (-3dB)
- ・内部抵抗値: 4Ω

- ・針先: ダイヤモンド Nude Replicant 100
- ・カンチレバー材質: ボロン
- ・コイル: Acuram 6N 銅に金メッキ
- ・外装ケース: ステンレス合金鋳造
- ・ダンパー: 特殊ゴム、特殊銅合金、24K 金などによる 4 重構造
- ・針圧: 2.3~2.8g (適正 2.6g)
- ・自重: 13.0g

この製品の紹介文

随所に新たな工夫を盛り込み、驚異の特性を持つ新開発エンジンを搭載。
最高を追求したオルトフォンの新たな銘機たるメモリアルモデル。
新たに設計主任となったライフ・ヨハンセン氏による製品で、MC Jubilee を
ベースに FSE 構造や 4 重ダンパーなど発電回路にリファインが加えられている。
ボロンカンチレバーと鏡面仕上げのレプリカント 100 で驚異的な特性を実現。

3 レコード盤の紹介例 (“Bags Groove” Miles Davis 1954)

元ネタ (=目録: つまりデータのみ)

- ・ Miles Davis (tp) Sonny Rollins (ts) Horace Silver (p) Percy Heath (b)
Kenny Clarke (ds)
June 29, 1954, NJ
- ・ Airgin, Doxy, Oleo, But Not For Me (2 takes)
- ・ Milt Jackson (vib) Thelonious Monk (p) for Rollins and Silver
Dec. 24, 1954 NJ
- ・ Bags Groove (2 takes)

このアルバムの紹介分例

「前半 2 テイクは、マイルスとモンクという、音楽的には認めあいながらも数えるほどしか共演の機会に恵まれなかった鬼才が相まみえた貴重な記録。
他の曲は『マイルス・デイヴィス・アンド・ザ・モダン・ジャズ・ジャイアンツ』に入っている。
後半 5 テイクはロリンズがプレイとペンの両方で気を吐いているが、彼はこの年の秋に雲隠れに入る。」

- 4 ついでに 1 枚のアルバムについてではなく「50 年代のジャズシーン」について
(これについて元ネタはありません)

これは紹介文というより解説文でしょうか：

「ビバップ第一世代の 50 年代 チャーリー・パーカー、ディジー・ガレスピーの試行錯誤とその背景」

「マイルスとハードバップ

(前略)

このような状況の中で、ハードバップの露払いとでもいう役割を買って出たのがマイルス・デイヴィス (tp) であった。

彼はすでにパーカーとの共演によってビバップ・シーンの渦中にあって経験を積み、またバップにおける音楽的不統一性を解消するため、特異な楽器編成と編曲の導入による 9 重奏団での活動を試み、それがクール・スタイルの一翼を担ったとも見られてきたが、バップ本来の黒人的エモーションを真正面から燃えさせた演奏こそ、自分の理想とするジャズと考えていたフシがある。」

最後に、「元ネタ」といってもその程度というかレベルは様々です。

本当の元ネタとは一体何か？という話しはややこしくなります。また厳密な意味での元ネタが入手出来るとしても、果たしてそこまで必要なかはやや疑問です。

ですから、可能な範囲で出来る範囲でそれを指向すればもうそれで十分だと思います。

例えばオーディオ機器の取説（これは元ネタと言っていいと思われれます）には記載されていない事柄が沢山あります。時代背景（＝暗黙の了解事項）なんかもそうですし、機器の寿命に関する事項は殆ど記載されていません。実際に使ってみなければ分からない事の方が多いのです。しかしそれでもオーディオ評論家の評価を鵜呑みにするよりは元ネタともいえる取説に目を通すほうがベターではないでしょうか。

以上